



2014年3月期 第2四半期 決算説明会

パイオニア株式会社
代表取締役 兼 社長執行役員
小谷 進

2013年11月12日

発表のポイント

1. 2014年3月期第2四半期連結決算実績:

- 第2四半期は、構造改革効果や原価率の改善、販売費及び一般管理費の減少等により、計画を上回る営業利益を達成。前年同期比でも、増収増益を実現
- この結果、ブレークイーブンの計画だった中間期の営業利益は黒字化を実現

2. 2014年3月期 連結業績予想:

- 通期の業績予想(売上5,050億円、営業利益100億円、純利益5億円)は変更せず

本日の説明

1. 2014年3月期 第2四半期連結決算
2. 2014年3月期 連結業績予想

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上するユーロ、米ドル、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2014年3月期 第2四半期 連結決算

2014年3月期 第2四半期・上期 連結業績概要

(単位:億円)

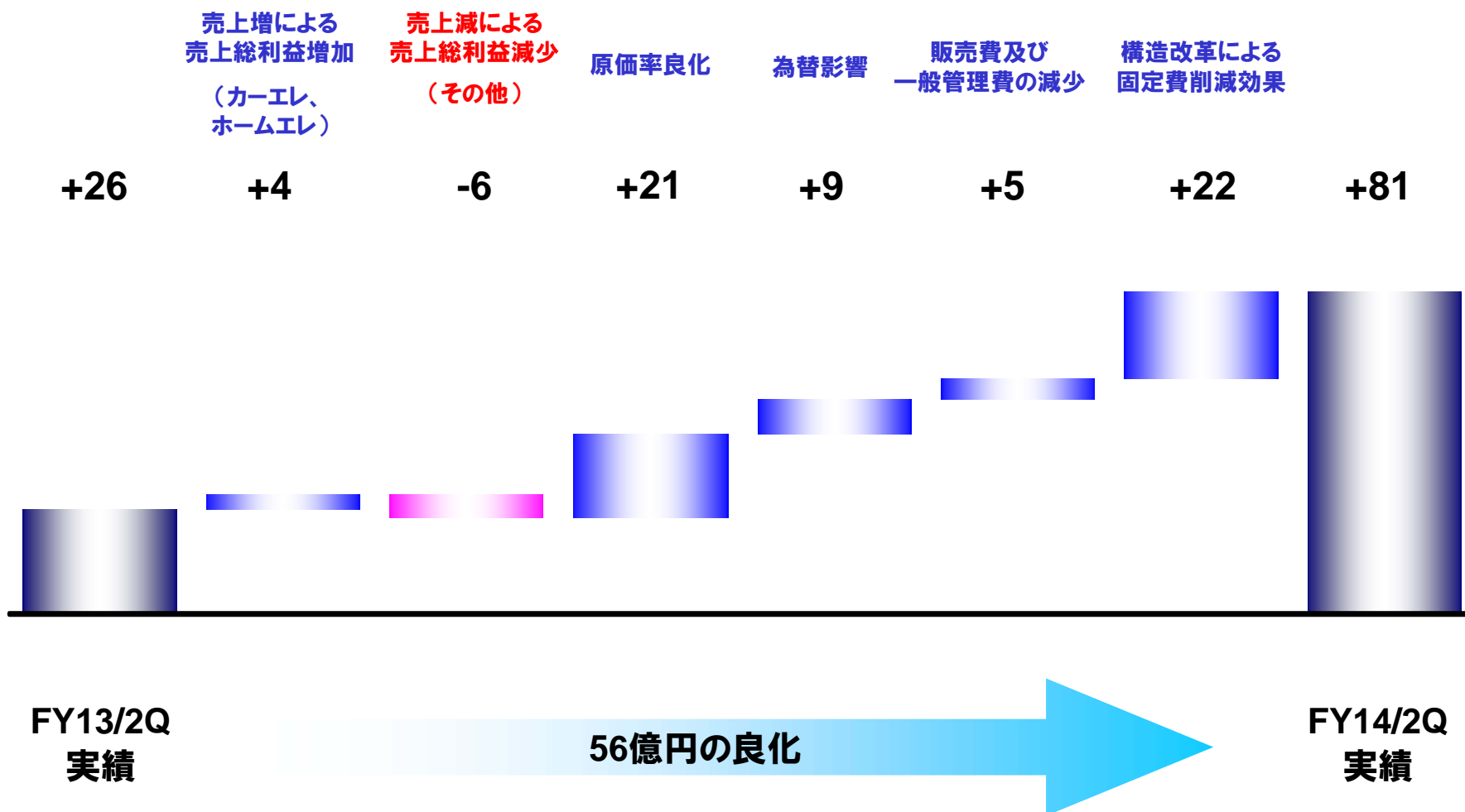
	第2四半期			上期		
	当四半期	前年同期	前年同期比	当期	前年同期	前年同期比
売上高	1,271	1,131	112.3%	2,363	2,246	105.2%
営業利益	81	26	318.6%	6	32	18.0%
経常損益	72	17	421.2%	-20	7	-
当期純損益	51	-47	-	-50	-75	-

為替 平均レート	1USドル	98.95円	78.62円	+20.5%	98.85円	79.41円	+19.7%
	1ユーロ	131.05円	98.36円	+24.9%	130.00円	100.64円	+22.6%

1株当たり純損益	13.96円	-14.76円	+28.72円	-14.35円	-23.36円	+9.01円
ROE	25.1%	-25.3%	+50.4%	-12.4%	-19.0%	+6.6%
1株当たり純資産	228.02円	230.90円	-2.88円			
ROA	6.3%	-6.3%	+12.6%	-3.1%	-4.8%	+1.7%

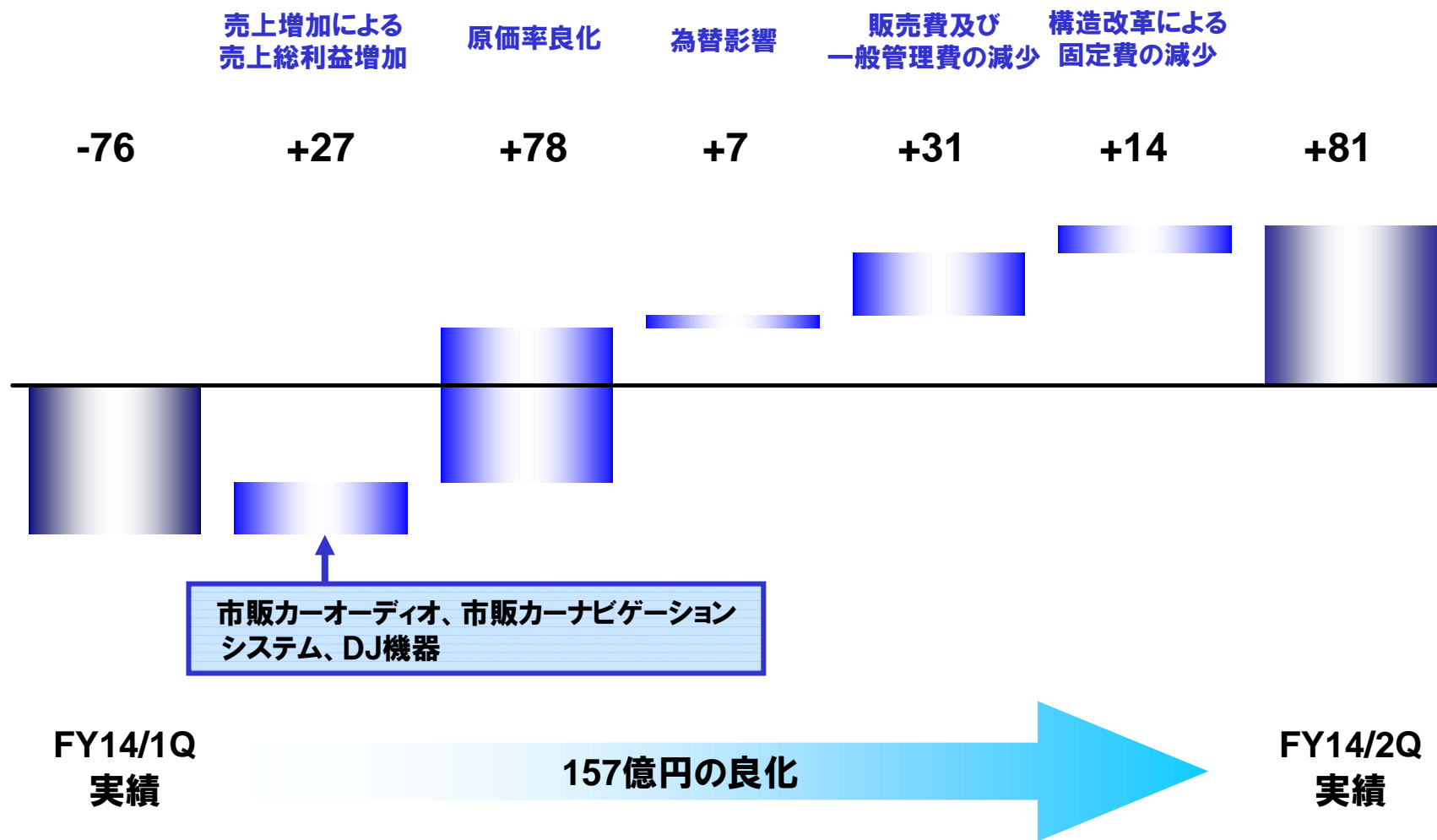
2014年3月期 第2四半期 営業損益増減要因（前年同期比較）

（単位：億円）



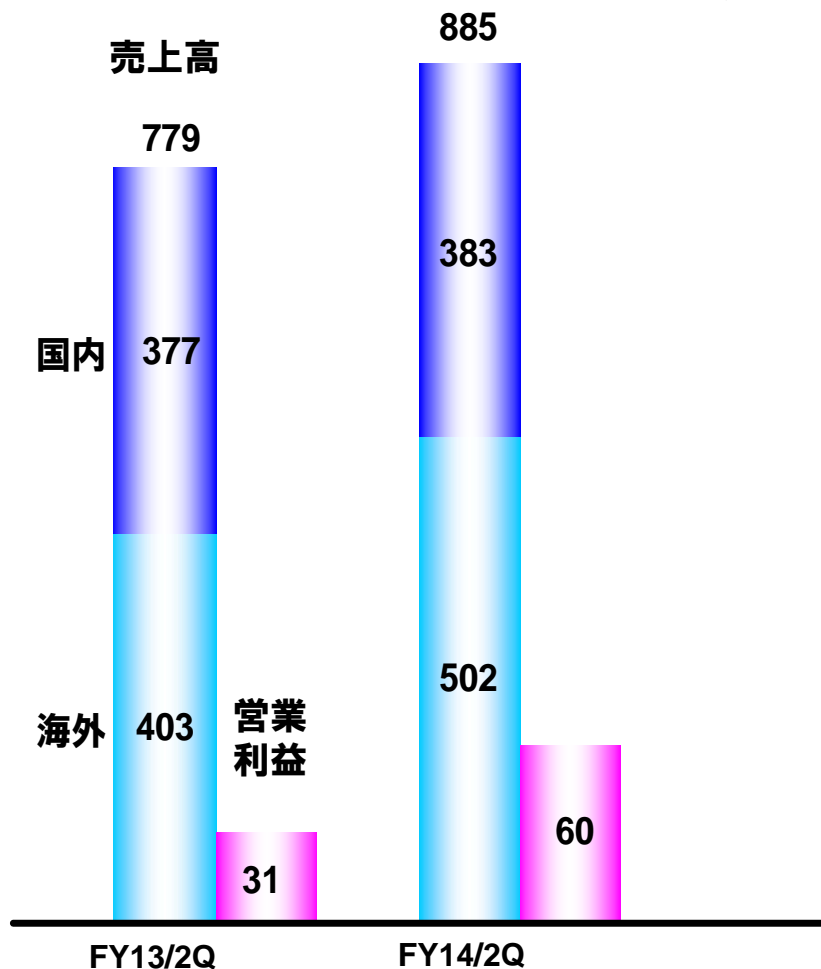
2014年3月期 第2四半期 営業損益増減要因（第1四半期比較）

（単位：億円）



セグメント別売上高・営業利益(第2四半期): カーエレクトロニクス

(単位:億円)



< 売上高 > OEM比率 53% (前年同期 51%)

前年同期比	114% (国内 102%、海外 125%)
増収要因	市販カーオーディオ OEMカーオーディオ OEMカーナビゲーションシステム
減収要因	市販カーナビゲーションシステム

< 営業利益 >

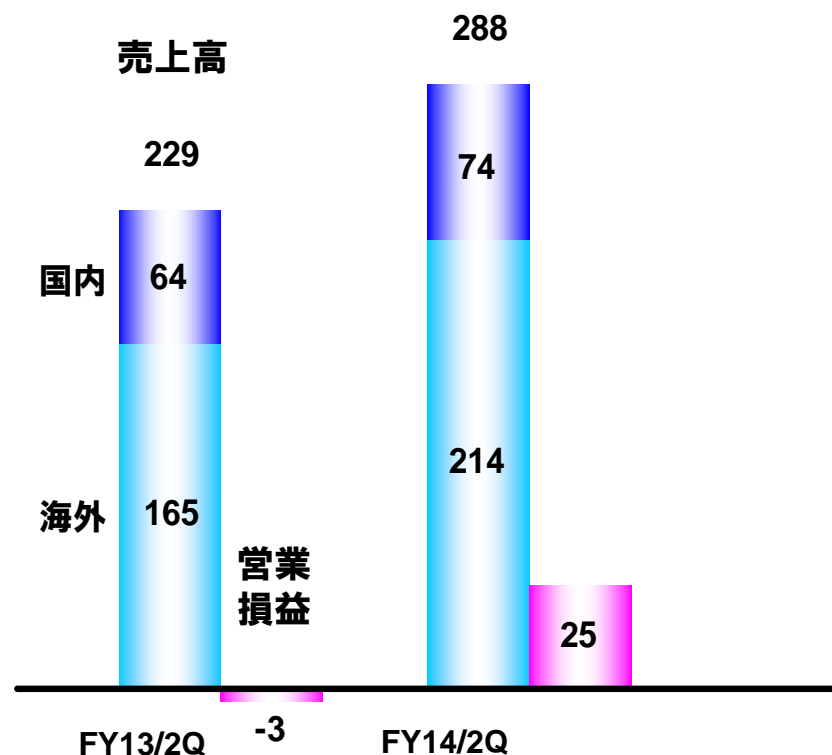
前年同期比	29億円の良化
良化要因	原価率の良化(+36億円) 売上増による売上総利益の増加(+1億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加(-5億円) 為替影響(-3億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カースピーカー

注)セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

セグメント別売上高・営業損益(第2四半期): ホームエレクトロニクス

(単位:億円)



< 売上高 >

前年同期比	126% (国内 116%、海外 130%)
増収要因	DJ機器
減収要因	光ディスクドライブ関連製品

< 営業損益 >

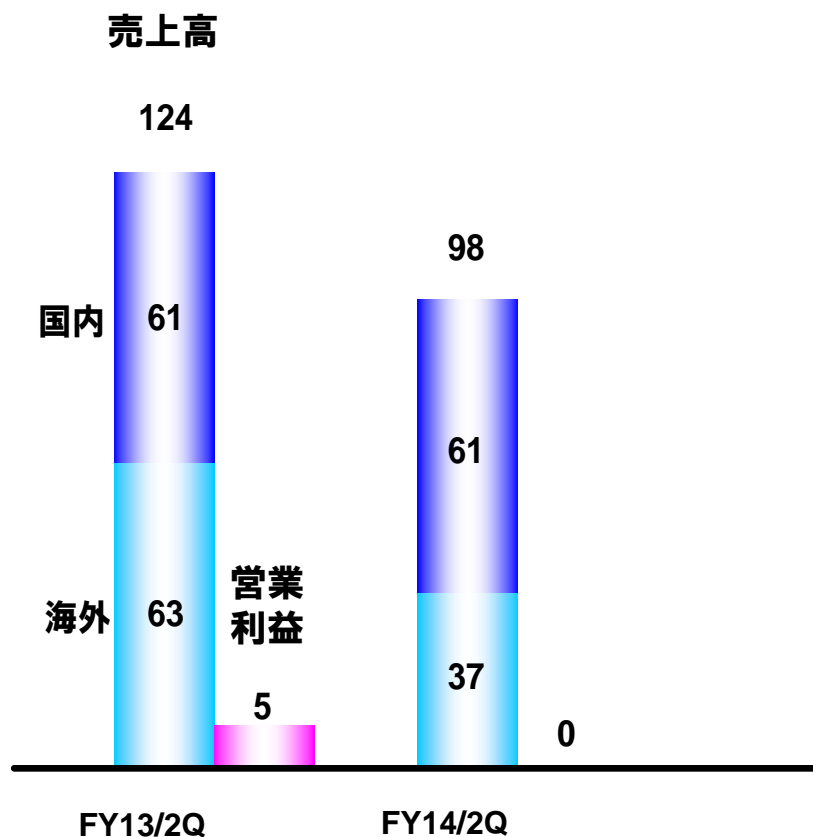
前年同期比	27億円の良化
良化要因	為替影響(+12億円) 原価率の良化(+11億円) 売上増による売上総利益の増加(+2億円) 販売費及び一般管理費の減少(+2億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
AVシステム、オーディオコンポーネント、DJ機器、CATV関連機器、ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクドライブ、DVDプレーヤー、DVDドライブ、AVアクセサリ

注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

セグメント別売上高・営業利益(第2四半期): その他

(単位:億円)



< 売上高 >

前年同期比	79% (国内 101%、海外 58%)
増収要因	電子部品
減収要因	FA機器、EMS

< 営業利益 >

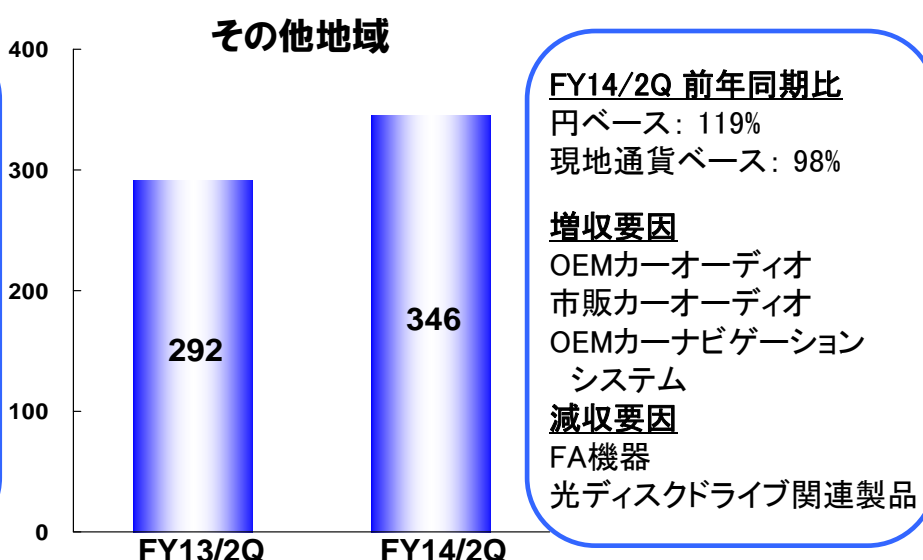
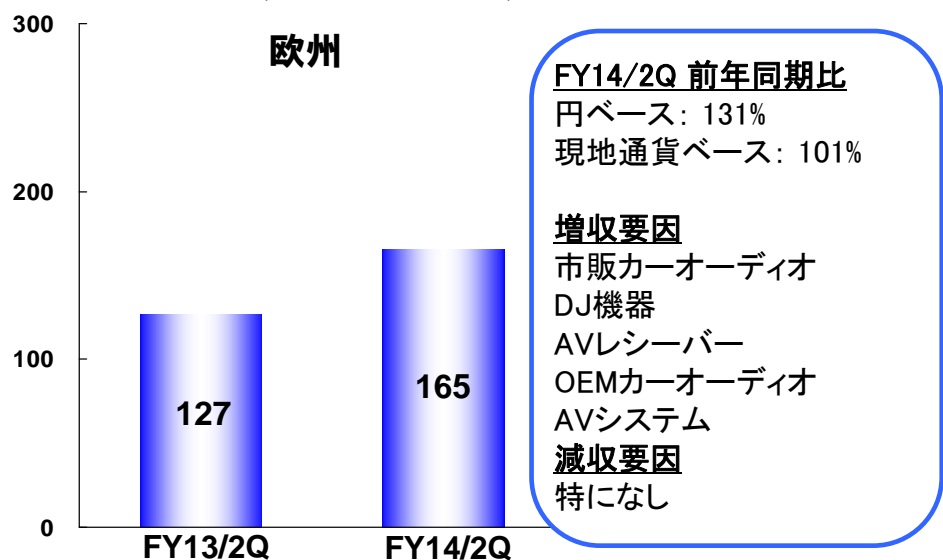
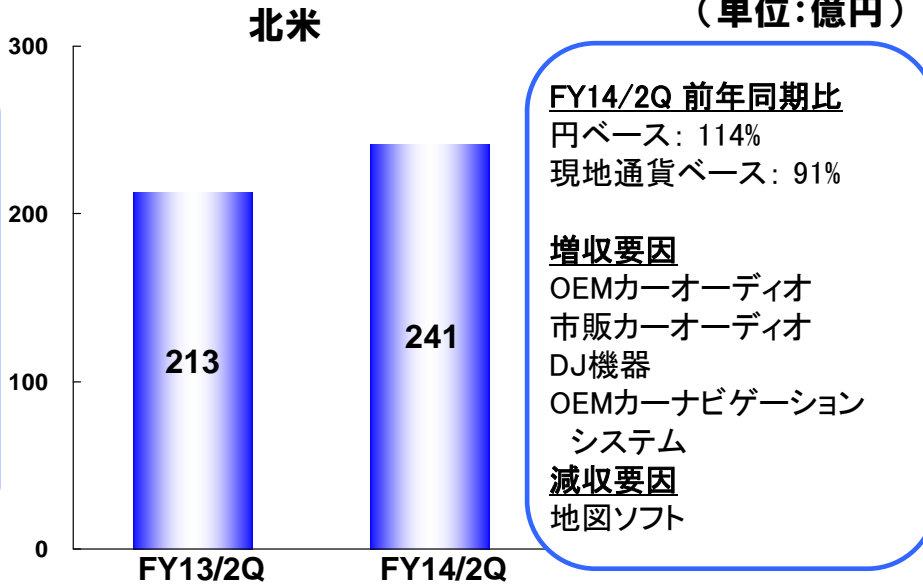
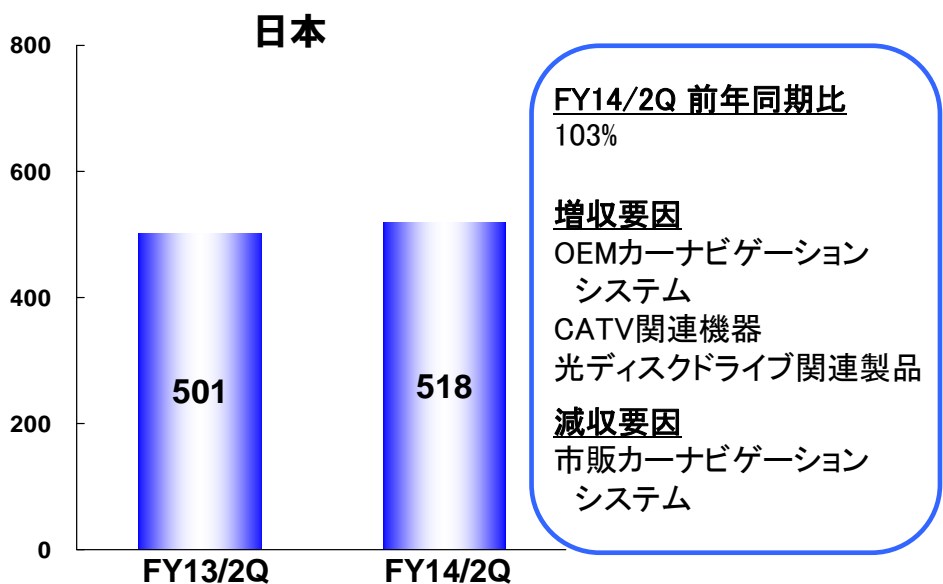
前年同期比	4億円の悪化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少(+7億円)
悪化要因	売上減による売上総利益の減少(-6億円) 原価率の悪化(-5億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
FA機器、スピーカーユニット、電子部品、有機ELディスプレイ、
電話機、業務用AVシステム、EMS(電子機器受託製造
サービス)、地図ソフト、光ディスク関連特許の使用許諾

注)セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2014年3月期 第2四半期 地域別売上高

(単位:億円)

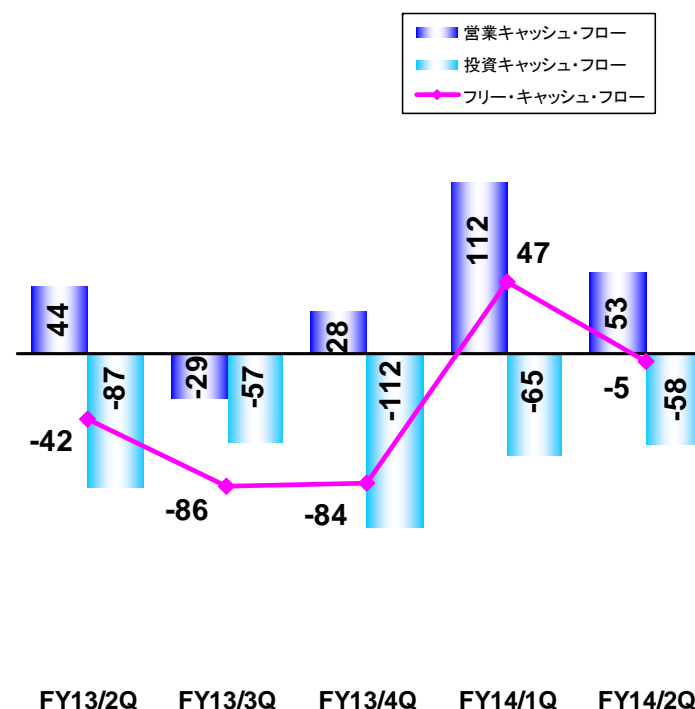


2014年3月期 第2四半期・上期 連結キャッシュ・フロー計算書

	第2四半期		上期	
	当四半期	前年同期	当期	前年同期
税金等調整前当期純損益	65	-43	-29	-57
減価償却費	60	62	125	122
退職給付引当金の増減	2	4	4	10
事業構造改善費用引当金の増減	-	-	-62	-
投資有価証券評価損	-	58	-	58
売上債権の増減	-104	-31	-35	59
棚卸資産の増減	22	-7	21	-118
仕入債務の増減	119	-42	210	-81
未払費用の増減	-86	39	-14	7
その他	-25	4	-57	12
営業キャッシュ・フロー	53	44	165	13
投資キャッシュ・フロー	-58	-87	-123	-183
財務キャッシュ・フロー	-12	40	70	35
現金・現金同等物の換算差額	-1	-1	5	-15
フリー・キャッシュ・フロー	-5	-42	41	-171

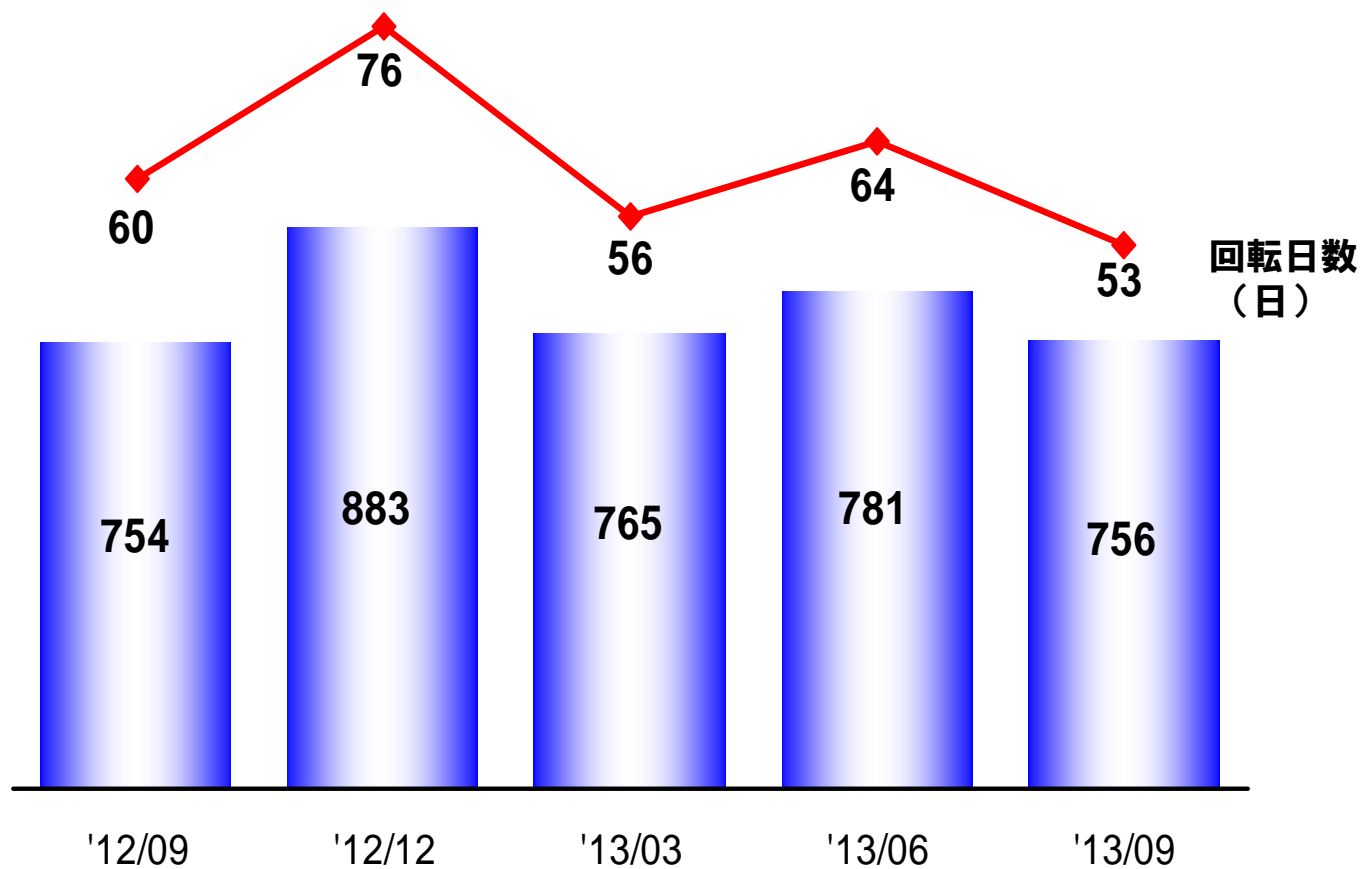
現金・現金同等物の増減	-18	-3	117	-151
現金・現金同等物の残高	327	309		
NETキャッシュ残高	-612	-605		

(単位:億円)



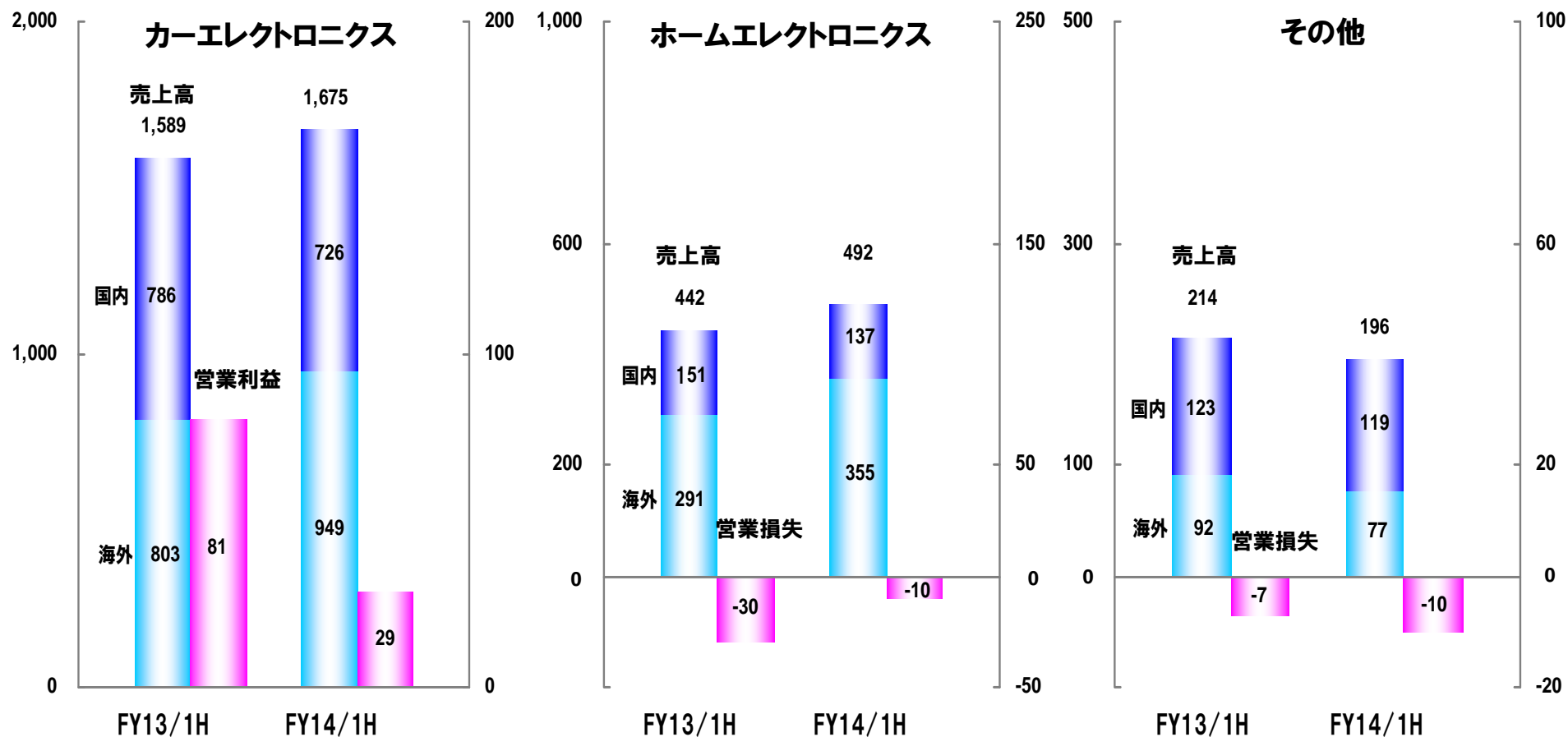
2014年3月期 第2四半期 棚卸資産

(単位:億円)



2014年3月期 セグメント別売上高・営業損益(上期)

(単位: 億円)



注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2. 2014年3月期連結業績予想

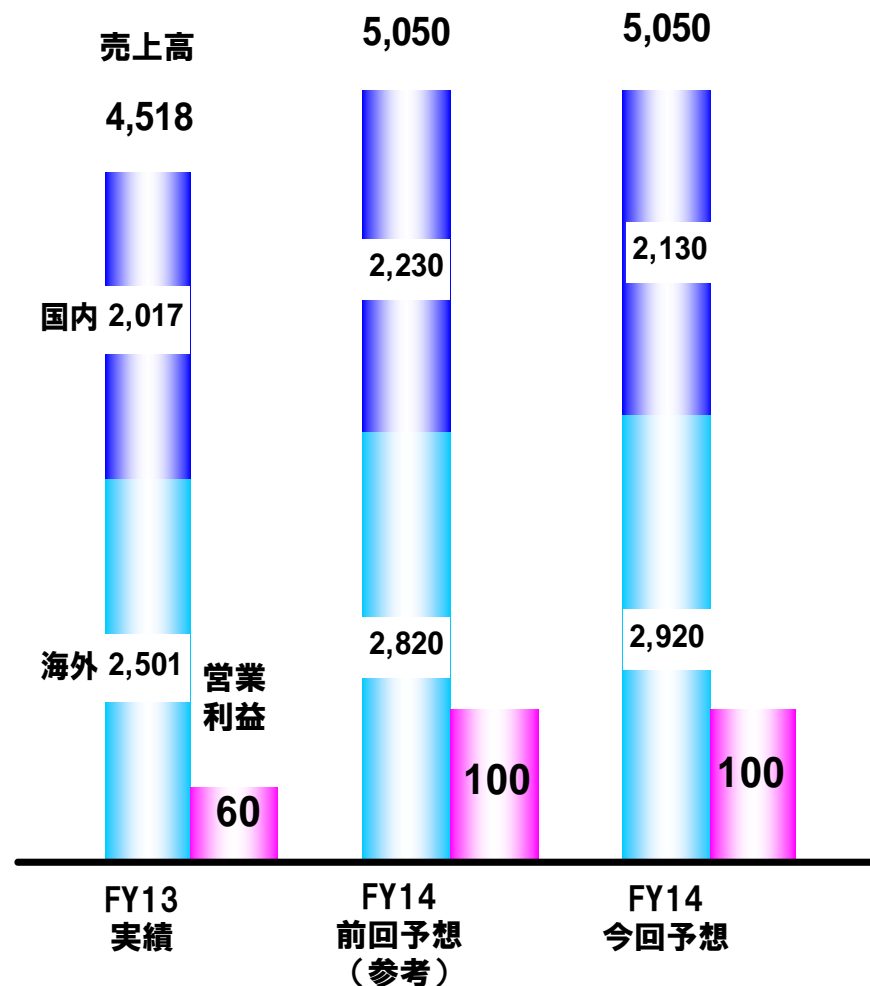
2014年3月期 通期連結業績予想

(単位:億円)

	FY14予想	前期実績	前期比
売上高	5,050	4,518	111.8%
営業利益	100	60	166.8%
経常利益	50	8	615.8%
当期純損益	5	-196	-

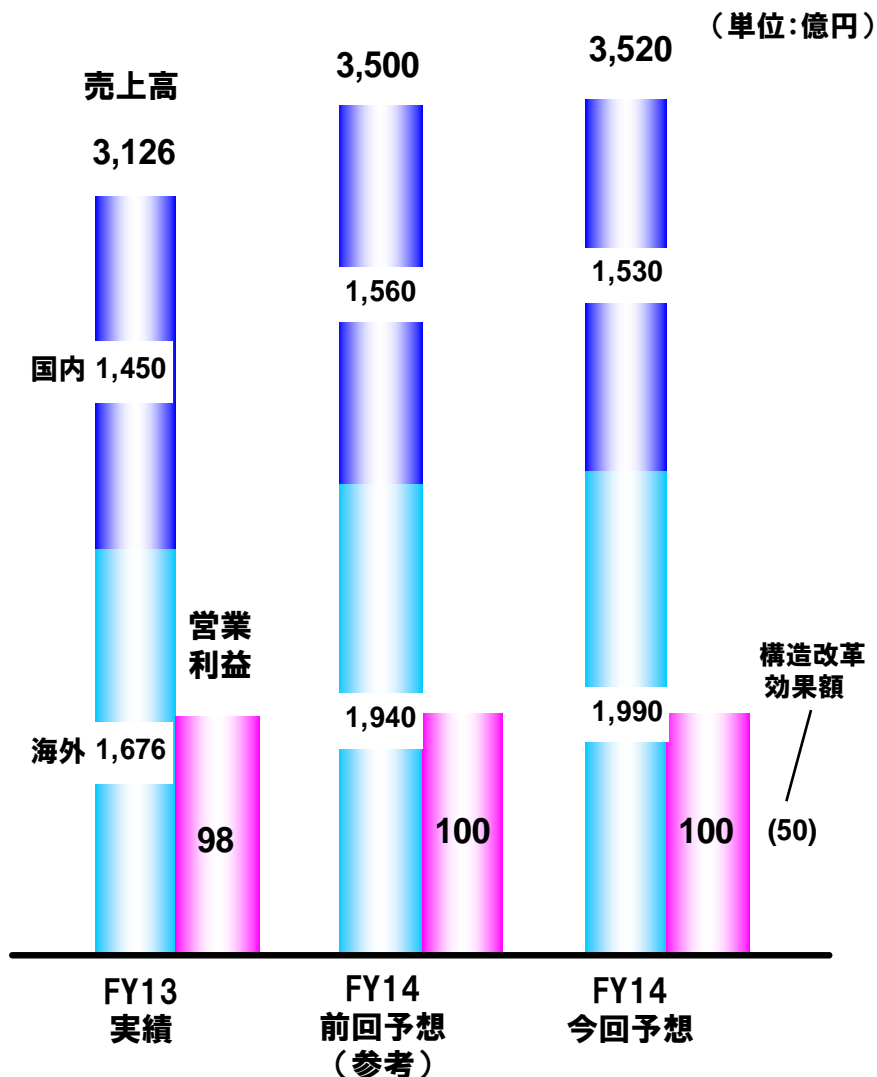
		FY14予想	前期実績
為替前提 レート	1USドル	95円	83.10円
	1ユーロ	130円	107.14円

	FY14予想	前期実績	前期比
1株当たり純損益	1.45円	-60.90円	+62.35円
ROE	0.7%	-24.4%	+25.1%
1株当たり純資産	202.02円	237.97円	-35.95円
ROA	0.2%	-6.2%	+6.4%



(注) 1円の円安インパクト(残り6ヵ月)は、売上高では、US\$は、約13.3億円、€は、約2.7億円、営業利益では、US\$は、約▲2.8億円、€は、約1.7億円。

2014年3月期予想：カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 54% (前期 51%)

対前期	113% (国内 106%、海外 119%)
増収要因	OEMカーナビゲーションシステム OEMカーオーディオ 市販カーオーディオ

< 営業利益 >

対前期	2億円の良化
良化要因	売上増による売上総利益増加(+29億円) 原価率良化(+7億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加(-23億円) 為替影響(-11億円)

< 出荷台数 >

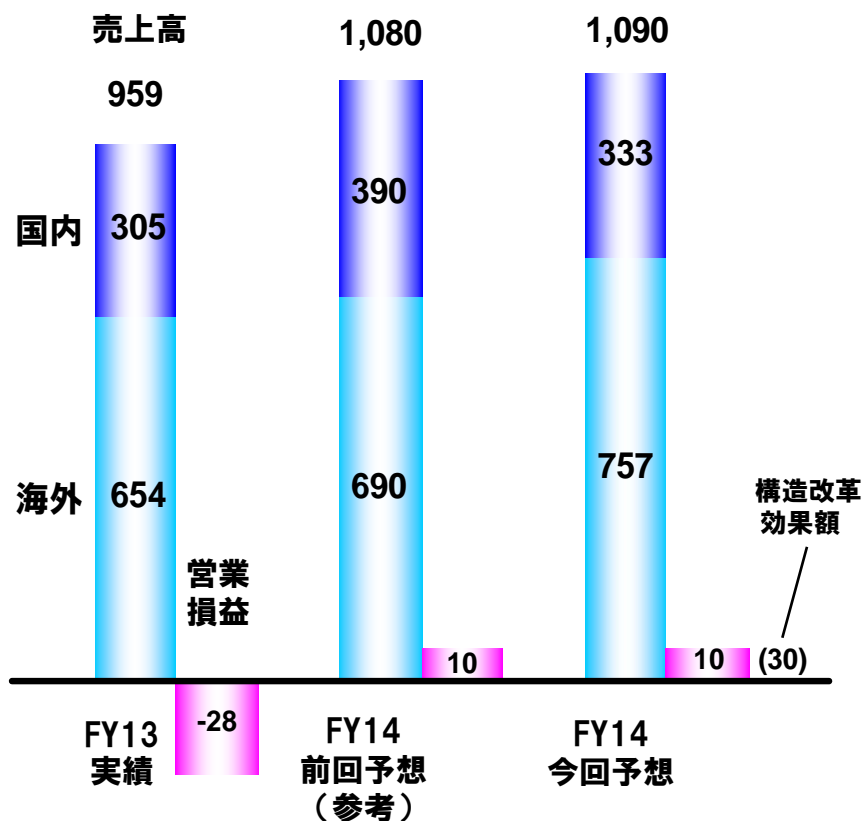
(単位:千台)

	FY13実績	FY14今回予想
市販カーナビ	904	840
市販カーCD	8,043	8,400

注)セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2014年3月期予想：ホームエレクトロニクス

(単位：億円)



< 売上高 >

対前期	114% (国内 109%、海外 116%)
増収要因	DJ機器、CATV関連機器、ホームAV製品
減収要因	光ディスクドライブ関連製品

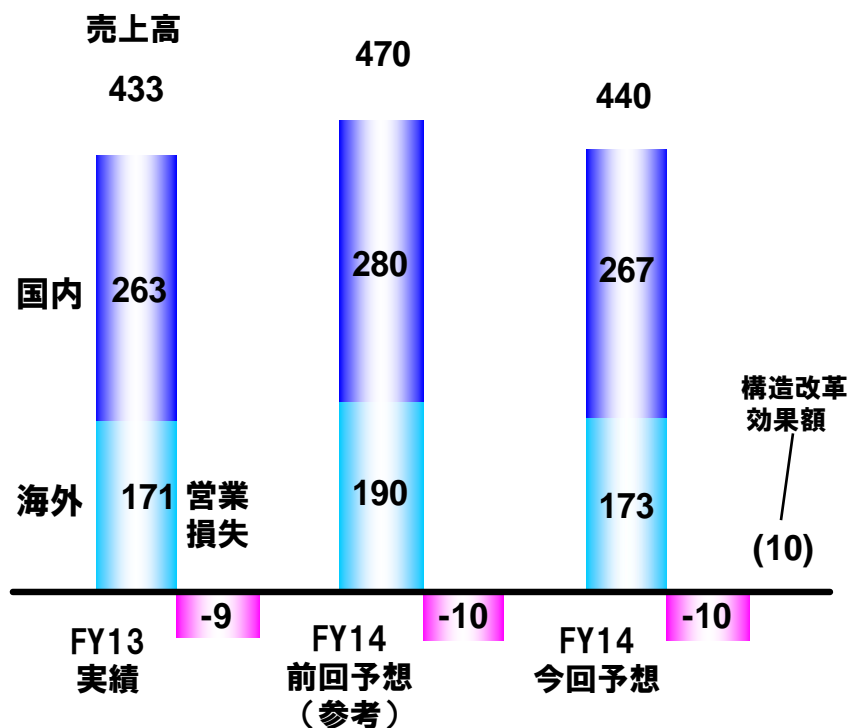
< 営業損益 >

対前期	38億円の良化
良化要因	原価率の良化(+39億円) 為替影響(+21億円)
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加(-20億円) 売上減による売上総利益の減少(-2億円)

注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2014年3月期予想：その他

(単位：億円)



< 売上高 >

対前期	102% (国内 102%、海外 101%)
増収要因	電子部品、スピーカーユニット
減収要因	FA機器、地図ソフト

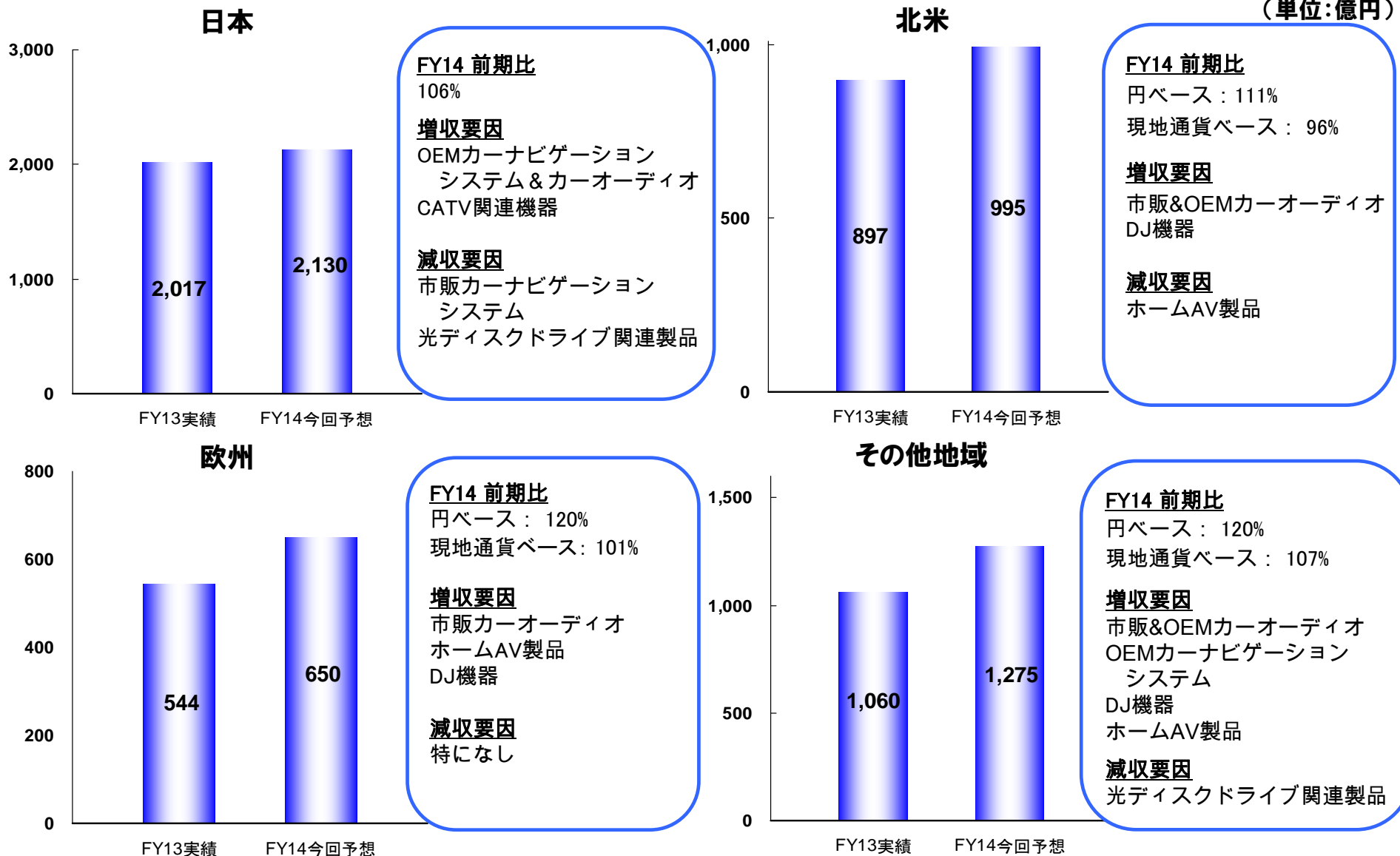
< 営業損益 >

対前期	1億円の悪化
良化要因	電子部品
悪化要因	地図ソフト

注)セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

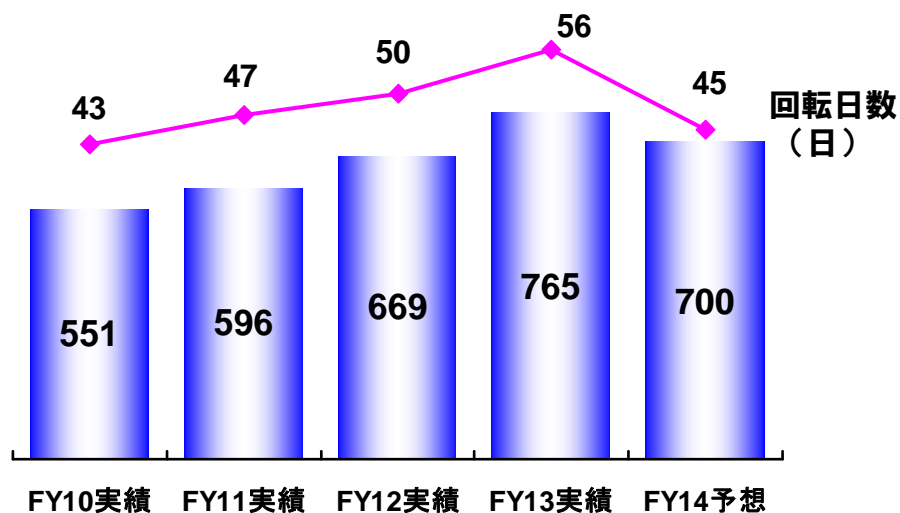
2014年3月期予想：地域別売上高

(単位:億円)

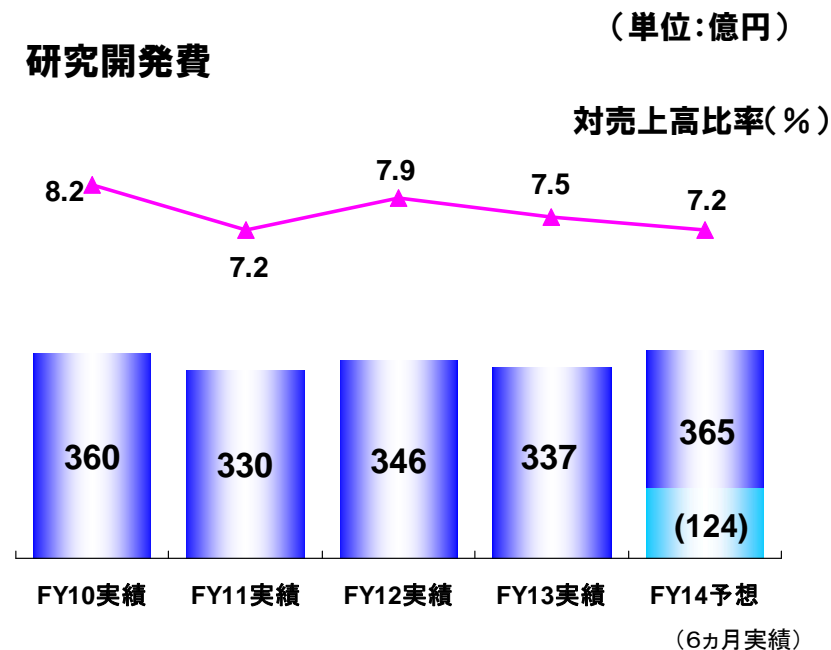


2014年3月期予想： 棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費

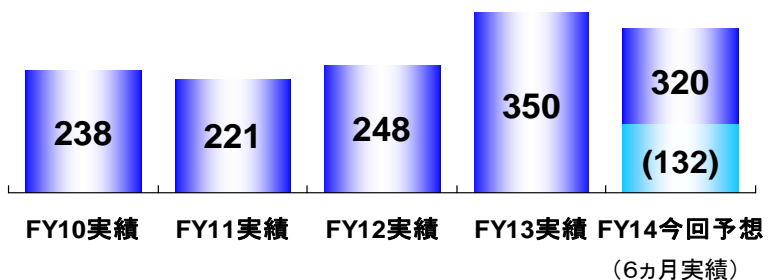
棚卸資産



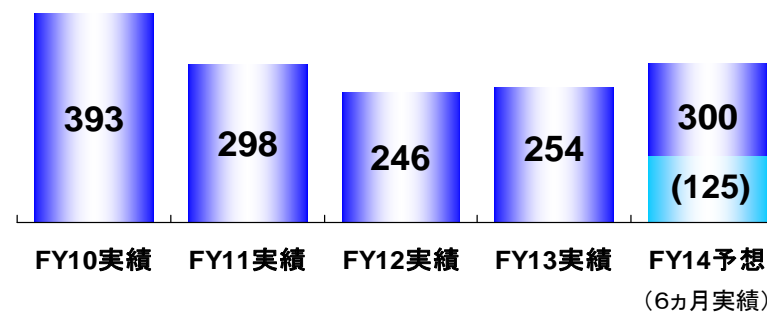
研究開発費



設備投資



減価償却費



2014年3月期予想： キャッシュ・フローおよび財務指標

(単位:億円)

	FY13実績	FY14前回予想	FY14今回予想
営業キャッシュ・フロー	12	400	340
投資キャッシュ・フロー	-352	-295	-315
財務キャッシュ・フロー	70	0	45
フリー・キャッシュ・フロー	-341	105	25

	FY13実績	FY14前回予想	FY14今回予想
純資産	816	805	790
自己資本比率	25%	23%	23%
ネット有利子負債	742	560	620
D/E比率	1.3倍	1.2倍	1.2倍
現金及び預金	221	330	300

- 注) 1. 「投資キャッシュ・フロー」、「現金及び預金」には、3カ月超の定期預金を含んでいます。
 2. 当期の「純資産」は、退職給付会計基準に基づく未認識年金債務の計上を見込んでいます。
 3. D/E比率＝有利子負債÷(純資産－少数株主持分)

Pioneer